未来表現 will の導入『お助け隊、出動！』授業案（あしたは何の日クイズから、先生の「困った」を I'll ～ で引き受けて本当に動き、教室のお助け掲示板へ）

英語教材ラボ

will を「未来を表す」と説明すると、中1は be going to と何が違うのか分からなくなります。違いがいちばん見えるのは、いま決めた瞬間です。この授業案は、カレンダーの行事を当てるクイズで will の形に慣れたあと、先生が教室で本当に困ってみせます。生徒は I'll carry them. と言って、本当にノートを運びます。最後は、教室の本当の困りごとを紙に書いて引き受け合う『お助け掲示板』です。

この教材で解決できる悩み

- will と be going to の違いを説明から入ると、中1には重くて伝わらない
- It will cold tomorrow.（be 落ち）や He will goes.（will のあとの s）が出る
- I'll を使う場面が教室に無く、I will の棒読みで終わる

教材の概要

項目	内容
対象	中学1年（ONE WORLD 1 Lesson 8／NEW CROWN 1 Lesson 9。2年で習う教科書は NEW HORIZON 2 Unit 1／SUNSHINE 2 PROGRAM 1／BLUE SKY 2 Unit 1／Here We Go! 2 Unit 3）
文法項目	未来表現 will（will＋動詞の原形・won't・It will be ～・その場で決める I'll ～）と be going to との違い
形式	授業案A4（あしたは何の日クイズ6問・「困った」の一覧つき）
所要時間	50分×1コマ
準備物	印刷のみ（投影版はプロジェクタ）・小さな紙か付箋（1人1枚）・軽いノートの束・ほかの先生の困りごとの紙3枚（前の日に聞いて英文にする）

授業の流れ（50分）

導入：あしたは何の日？（12分）

「あしたは何の日でしょう。先生が3つ言います。3つ目まで聞いてから、札に手を挙げてください」と告げます。札を4つ並べ（投影版は画面の下・紙なら黒板）、3文を1文ずつ読みます（1つ目と2つ目で1つずつ消え、3つ目で決まる）。

1. It will be cold tomorrow.
2. It won't be the first day of the year.
3. Many people will throw beans and say, "Oni wa soto!"

2つ目を読んだら won't＝will not（しない）と板書し、消さずに続けます。答えは節分（札：七夕／節分○／元日／大みそか）。答えのたびに1文を板書し（順に It will be cold tomorrow.／A big bell will ring 108 times.／People will write their wishes on paper.／It won't be a day for sports.／A man in red will visit many houses at night.／Big fish won't swim in the sky tomorrow.）、will か won't と次の動詞に

線を引きます。2問目からも同じ形です（3文を／で区切る・〇が答え。注はその語が出る文で1語ずつ板書＝throw まく・bean 豆・noodle 麺・ring 鳴る・bell 鐘・108 times 108回・wish 願いごと・in red 赤い服を着た・wear 着る・costume 仮装の衣装）。

- People won't throw beans tomorrow.／Santa won't come tomorrow night.／Many people will eat long noodles, and a big bell will ring 108 times.　札：節分／クリスマスイブ／元日／大みそか〇
- It won't be a day for chocolate.／Children won't say, "Trick or treat!" tomorrow.／People will write their wishes on paper and look at the stars.　札：七夕〇／バレンタインデー／ハロウィン／こどもの日
- People won't say, "Happy New Year!" tomorrow.／It won't be a day for sports.／Big fish will swim in the sky.　札：元日／スポーツの日／こどもの日〇／ひな祭り
- Children won't say, "Trick or treat!" tomorrow.／It won't be the first day of the year.／A man in red will visit many houses at night.　札：ハロウィン／クリスマスイブ〇／元日／バレンタインデー
- People won't look at the stars tomorrow.／Big fish won't swim in the sky tomorrow.／Children will wear costumes and say, "Trick or treat!"　札：七夕／こどもの日／節分／ハロウィン〇

気づき：will の形（6分）

板書から3文を選んで並べ、1文ずつ問います。

- It will be cold tomorrow.―be を落として It will cold としない（is が will のあとで be に）
- A big bell will ring 108 times.―主語が a big bell でも rings としない。will のあとは動詞の原形（can のあとと同じ）
- Big fish won't swim in the sky tomorrow.―won't は will not の短い形。否定も動詞は原形

きまりを2行で板書します。「これから起こることは will＋動詞の原形でも言える」「will は形が変わらない。否定は won't」。カレンダーの行事は be going to でも言えます（習ったクラスには一言）。

動く：先生の「困った」を引き受ける（8分）

「ここからは will のもう1つの使い方です。今から先生が本当に困ります。助けられる人は手を挙げてください。指された人は I'll ～. と言ってから、本当に動きます」と告げます。軽いノートの束（10冊ほど）を持って重そうによろけ、These notebooks are heavy. と言います。1つ目だけ I'll carry them. を板書します（I will → I'll、読みは「アイル」）。

続けて、The blackboard is dirty.（I'll clean it.・消してよい端にわざと落書きを残しておく）／It's hot in here.（I'll open the window.・寒い日は cold／close）／I can't find my red chalk.（I'll look for it.・教卓のまわりに隠しておく）。1回動いた人は次は見る側へ。本当に重い物と高い所は頼みません。窓は先生のそばの1枚だけ。

「いつ決めましたか」と問い、答えの「今」を板書します。be going to を習ったクラスは2文を並べます。I'm going to clean my room on Sunday.（前から決めてある）／The blackboard is dirty. – I'll clean it.（今、決めた）。

やり取り：班で「困った」カード（12分）

下の一覧の左の列を板書するか厚紙に書きます（右の列は先生用）。4人班で、1人が「困った」を1つ読みます。ほかの3人が順に I'll ～. で引き受けます（同じ文は言えない）。読んだ人は3人に Thank you. と言って

から、いちばん助かる文を1つ選び、読む番を回します。

困った	引き受ける文の例
My bag is heavy.	I'll carry it.／I'll help you.
It's raining, and I don't have an umbrella.	I'll walk with you.／I'll get an umbrella.
I can't read this kanji.	I'll read it.／I'll ask our teacher.
This homework is very hard.	I'll help you.／I'll call you tonight.
I can't find my dog.	I'll look for your dog.／I'll call my friends.
I'm very hungry.	I'll make lunch.／I'll bring an apple for you.
I don't have a present for Ken.	I'll make a cake.／I'll sing for him.

動詞の候補（carry・help・bring・make・read・call・walk・ask・look for）は板書します。机間で見るのは、I'll helped（過去形）、I'll going to、I will to help。

出口：お助け掲示板（10分）

形を板書します（The window is dirty.／～ are heavy.／I can't find ～.／It's hot in here.・dirty＝汚れた）。小さな紙に、この教室か学校の本当の困りごとを英語で1文書きます。人・係・当番のことは書きません。先生が全部読んでから教室の後ろに貼り、生徒は歩いて読み、引き受けたい紙に I'll clean it.— Ken のように自分の名前を書きます（1人1～2枚・名前は自分のものだけ。先生が最後に見て回り、残った紙は先生が引き受ける）。

前の日に職員室で、ほかの先生の本当の困りごとを3つ聞き、英文の紙にして足しておきます（The library books are on the table. など・係の仕事と重ならないもの）。引き受けるのは、休み時間に1人でできることだけです（放課後に残らない・校外に行かない・お金がかからない）。次の授業までに本当にやり、その授業の最初の2分で数人に Did you clean it? と聞きます（Yes, I did.／できなかった子は Sorry. I'll clean it tomorrow. でよい）。

まとめ（2分）

板書のきまり2行と「今、決めた＝I'll」を、全員で読んで終わります。

定着・受験への接続

入試の対話文の応答（I'll help you.）と、予定や予想を書く英作文につながります。be going to の導入は『先生の冬休みプロデュース』（ONE WORLD 1 ではこの時間の前）、紙の練習ははじめてドリル、確認は10分小テスト、応用は『持っていくもの会議』。Premium は使い分けワークシートと文法を読む。

投影版パワーポイント（Premium）

導入のクイズ6問のパワーポイント（全27枚・話者ノートつき）。Premiumのファイルです。